海外コンポで
ジャズを聴く

Overseas Component

Audio Space

From China

テナーサックスがなんとも生々しい。鳴り始めてすぐそう感じた
いや，生っぽいのではなく，生そのもの
まるで，目の前で吹いているかのようにリアルなのだ

REPORT：篠田寛一

オーディオスペースは香港の高級真空管アンプのブランドでわが国には2000年にデビューした。クラスを超えた上質なサウンドと作りの良さに加え，手頃な価格が追い風になってこの5年あまりの間に急成長，現在では中国製の真空管アンプを代表するブランドの一つになったと聞いている。

先ごろ，同社から3つの新しい製品がやってきた。輸入元のカイン ラボラトリー ジャパンの話によれば，今回の3モデルに共通するのは従来機にもましてコストパフォーマンスが高いことだという。ジャズをどのように聴かせてくれるのか，大変楽しみだが，まずはプリメイン・アンプのHouston Mini 2004（以下 Mini2004）の紹介からはじめよう。

しなやかな声でしっとりと歌うボーカルが眼前にビビッドに迫ってくる

Mini2004は，コンパクトでキュートなスタイルが特徴的なMiniシリーズの第2弾だ。ちなみに前作はMini 1998。6BQ5プッシュプル（以下 PP）／ch構成のプリメイン・アンプだったが，このMini2004の出力段は6V6のPPである。6V6は70年ほど前に誕生したビーム型の出力管で，効率のよさが大きな美点に挙げられる。本機はその6V6 PP／chの出力段をUL（ウルトラリニア）接続としているのが注目点の一つ。参考までに，UL接続というのは専用の出力トランスを用いて5極管やビーム管の出力をあまり落とすことなく歪み特性などを3極管接続の特性に近づけようという発想から生まれた方法である。出力は13W+13Wだ。電源部は本体と同サイズの別筐体に独立させたセパレート方式だが，これは本体をできるだけコンパクトに仕上げるためと電源トランスなどからのノイズの影響を防ぐのが主な目的だ。さらに，フロントパネルのスイッチでNFB（負帰還）が最小～最大まで6段階に切り換えられるのも見逃せない。これは部屋の環境や使用スピーカーなどに応じて好みの音質が選べる機能である。

出てくるのは，中～高域にのせたある種心地よい硬質な輝きがアクセントになった明るい音である。さらに，適度に力のある中低域を軸にした安定感のある鳴り方なのも好ましく思うが，何より感心させられるのはスピーカーのドライブ力が高いことだ。見るからにドライブし難そうな試聴室の大型スピーカーJBL 4348を結構ダイナミックに鳴らし切るのである。もちろん，このクラスのアンプにしては，という前提での話だが，たとえば，とかく重くドロンとした鳴り方になりがちな低音も，そうはならないのだ。それなりに歯切れよく弾ませるのである。その鳴らしっぷりの良さはとても13W+13Wのアンプとは思えないほど。同時に，ドライブ力は出力の大小だけでは語れないことを改めて痛感させられた。NFBの量も変えてみた。ポジションによって音色に微妙な差があるのが認められる。試聴室では最小の位置で4348が一番元気のいい音が出てきたので，試聴盤はこの状態で聴くことにした。

最初に聴くのは『ラッシュ・ライフ／ジョー・ヘンダーソン』（SACD／CDハイブリッド，2ch／5chマルチ）。鳴り始めてすぐ，なんと生っぽいテナーだろうと思った。少しオーバーな言い方をすれば，管の出口から空気が塊になって飛んでくるような再現なのである。それに，弾力感を伴いながら軽快に響くベースも実に快い。全体的にもう少し重量感があればとか，聴く者に向かってくるような勢いみたいなものが感じられたらといった注文もないではないが，価格が10万円そこそこのモデルということを考えると，この描写は立派なも

DISC for TRIAL

【SACD】ラッシュ・ライフ／ジョー・ヘンダーソン（ユニバーサル クラシックス&ジャズ：Verve UCGU-7027）

【CD】フランスへのオマージュ／ディー・ディー・ブリッジウォーター（ユニバーサル クラシックス&ジャズ：Verve UCCV-1068）

ジョー・ヘンダーソン『ラッシュ・ライフ』は，1991年録音作品。ルディ・ヴァン・ゲルダー自身がマルチチャンネルのミックスを手掛け，CD/SACDハイブリッド盤で復刻した注目作。『フランスへのオマージュ』は，ジャズ界屈指の歌姫ディー・ディーが全編フランス語でシャンソンの名曲を歌い上げた最新アルバム。パリで録音された。

の。もっと鳴らしやすいスピーカーと組合せれば，さらに真に迫った演奏が楽しめそうだ。

もう1枚『フランスへのオマージュ／ディー・ディー・ブリッジウォーター』もなかなかよかった。しなやかな声質も鮮やかに感情を込めてしっとりと歌うボーカルがビビッドに迫ってくるのである。ここはとても魅力的だ。これから真空管アンプを始めたいと考えている入門者やサブシステム用のアンプを探している人などに好適なモデルということができよう。

ディー・ディーの歌声には人肌の温もりが加わって，一段と生々しい

次に紹介する新製品AS-6Mは，同社の人気ステレオ・プリメイン・アンプAS-6iをそのままモノブロック仕様に変更したタイプである。何でも，AVユーザーやマルチchオーディオのファンにも真空管アンプの音を楽しんでもらいたい，という願いを込めて開発したのだそうである。モノラル機は5.1chや5chなどのマルチchシステムの構築に都合がいいのは言うまでもないが，2chのピュアオーディオでもよい面が期待できる。つまり，モノラル特有の優れたチャンネルセパレーションに起因する，明確な音像定位やステレオイメージ豊かなサウンドが望めるというわけだ。

続いて，内容を簡単に説明しておこう。前述のようにAS-6iをそのまま2分割してモノラル仕様に変更したタイプなので基本部分はAS-6iと変わるところはない。KT88 PPによる出力段やフロントパネルのスイッチで3極管接続とUL接続の双方が選べるのもAS-6iと同じだ。ちなみに，KT88はPPで70W～100Wの出力が得られるビーム型のハイパワー管だ。また，3極管接続というのはビーム管や5極管のスクリーングリッドとプレートを結んで同電位とし3極管と同等の特性を得よ

管球式プリメイン・アンプ **Houston Mini 2004** *¥102,900*（税込）

●使用真空管：6V6（6P6P）×4（V1，V2，V3，V4），12AX7（ECC-83）×2，出力：13W＋13W（Class AB 2P-P，ULTRALINEAR），出力インピーダンス：4Ω～16Ω，再生周波数特性：20Hz～20kHz －2dB，全高調波歪率：1%以下（20Hz～20kHz），SN比：90dB以上，トータルゲイン：30dB，ダンピングファクター：3以上，入力感度：100mV～600mV，入力インピーダンス：250kΩ，外形寸法：164×132×210（WHD）mm（アンプ部），164×60×173（WHD）mm（電源部），質量：6.5kg

管球式フォノ・イコライザー・アンプ **PHONO-ONE** *¥134,400*（税込）

●使用真空管：12AX7（ECC-83 or 4004）×4，6SN7（6N8P or ECC32）×1，周波数特性：10Hz～80kHz －0.5dB，全高調波歪率：0.3%以下，SN比：82dB，入力感度／インピーダンス：3～5mV／47kΩ（Phono MM），0.3～0.6mV／15Ω～1.2kΩ（Phono MC），50～150mV／200kΩ（Line IN），出力：2V（8V P-P max），出力インピーダンス：2.8kΩ以下，外形寸法：266×164×278（WHD）mm，質量：7.8kg

うという方法である。5極管接続やUL接続に比べると出力は落ちるものの，3極管に近い歪み特性やダンピング特性を得ることができる。なお，出力は3極管接続時で25W，UL接続の場合は50Wである。

本機に接して感じるのは，質実剛健。デザインは素っ気ないほどシンプルだが，厚み十分のフロントパネルや剛性の高いステンレス製シャーシなど，ボディの作りは堅牢そのもの。そこからは音質に悪影響を及ぼす振動，共振を排除しようという作り手の考えが伝わってくる。入力は，入力スイッチと音量ボリュームを通る端子（プリメイン・アンプとして機能する）と直接アンプの初段に入るダイレクトイン端子（パワーアンプとして機能する）をそれぞれ1系統装備する。

今回はプリメイン・アンプ仕様で試聴した。最初にUL接続で聴いてみたところ，柔らかくて穏やかな風合いの中にもシャープな切れ込みや適度な分解能を感じる緻密な音が出てきた。また，4348の鳴りっぷり，いや，鳴らしっぷりも申し分ない。ローエンド方向まで無理なく伸びたダイナミックな低音が，優れたドライブ力の持ち主であることを如実に物語っている。それに音場の拡がりや奥行きといった空間感を上手に表現したり，音像が明確に定位するのも誠に好ましい。

初めに聴いたのは『ジョー・ヘンダーソン』。先のMini 2004との比較は意味のないことではあるが，それを承知で言うなら本機が聴かせるテナーは生っぽいのではなく生そのもの。まるで目の前で吹いているかのようにリアルなのだ。加えて，ベースやドラムスには前に出てくるような勢いがあるので，これぞジャズの活力が感じられる。躍動感溢れる魅力的な演奏が楽しめたし，演奏している場の空気感もよく出ている。2chでもこれだけ臨場感豊かなのだから，5chマルチ（本盤は5chマルチも収録）では演奏している場所で聴いているように感じるに違いない。そ

管球式モノラル・プリメイン・アンプ AS-6M ¥205,800（ペア，税込）

●使用真空管：KT88×2，6N8P×1，6N9P×1，出力：50W（2P-P Class AB），25W（TRIODE），出力インピーダンス：4Ω，8Ω，再生周波数特性：20Hz～20kHz ±0.5dB，全高調波歪率：1%以下（20Hz～20kHz），SN比：89dB，入力感度：600mVs，入力インピーダンス：68kΩ，消費電力：140W，外形寸法：180×195×470(WHD)mm，質量：15kg

う思うと，無性に5chマルチが聴きたくなった。

『ディー・ディー…』は，しなやかな声質に人肌の温もりが加わって一段と生々しい。ことにアコーディオンと歌声がしっくり溶け合っているあたりにはフランス一流のエスプリが聴きとれる。いつものディー・ディーとはひと味違うエレガンスなボーカルが楽しめた。一方，3極管接続は柔軟でしかも弾力感のある鳴り方などUL接続と共通する部分も少なくないが，UL接続に比べるとパワーが半分になることもあってパワー感やエネルギー感がやや後退するのは否めない。その反面，繊細さやキメの細かさ，あるいは艶やかさなどが増して，より精緻で緻密な描き出しになったように感じる。試聴盤2作品とも，ディテールまで鮮明な実感的な表出になる。これはこれで魅力的ではあるが，やはり力がもう少し欲しい。ジャズを聴くにはUL接続の方が向いているように感じた。

アナログ盤でジャズを楽しむベテランの方に注目のフォノ・イコライザーも登場

3機種目はフォノ・イコライザー・アンプPHONO-ONEだが，今回は残念ながら実際に試聴できなかったので製品概要紹介にとどめておきたい。信号回路の真空管は4本の12AX7／ECC83。また，シャーシセンター部のGT管6SN7はB電源のレギュレーター用である。イコライザーはNF形で2系統の入力端子（MM，MC各1）と2つの出力端子を備える。また，MCの入力インピーダンスが15Ω～1.2kΩまで6ステップ切替えられる。より幅広いタイプのMCに対応するよう設計されているのだ。

ところで，カイン ラボラトリー ジャパンは真空管アンプ以外にも各種のアクセサリー類や音質改善グッズなど興味深い製品を輸入している。同社のホームページに一度訪れてみてはいかがだろうか。

カイン ラボラトリー ジャパンが販売している注目のオーディオ・アクセサリー

フューズ **ISOCLEAN POWER Audio Grade Fuse**

¥3,150（税込） ●ISOCLEAN POWERは，電源トランスや電源タップを中心に，各種ケーブル類，インシュレーターなどを手掛けているブランド。特に安定したクリーンな電源を追求した電源まわりのアクセサリー製品群はハイエンド・オーディオ・ファンから高い評価を得ている。ここで紹介する新製品は，フューズだ。オーディオ・コンポーネントの電源部に用いられているフューズが音質に大きな影響を与えるパーツであることを認識した同社が，常に最適な伝導性を保つために開発したオーディオ・グレード・フューズ。24K金メッキを採用するなど高品位な設計で，忠実度の高い音の再現を可能にしている。容量やサイズなど，豊富な製品ナインナップを揃えている。

ディスク静電気除去器

Analogue Lab Plus 100

¥37,800（税込） ●同社は，CDをはじめとする光ディスクには製造プロセスにおいて必ず強い静電気が滞留し，再生品質に相当な悪影響を及ぼしているということをつきとめた。本機Plus 100は，高電位をディスクの表面全体でスキャンし処理を行なうことで，ディスク内滞留静電気を除去し，音や映像の再生効果をアップグレードする機械だ。CD，DVD-A/V，SACDなど12cm以下のディスクはすべて処理できる。処理時間は約3分，一度処理をすれば半永久的に効果があり，繰り返し処理をする必要はないという。まさか，CDがSACDクォリティに変化するなんてことはないだろうが，微妙なニュアンスの再生でもうひとつ……，とお考えの方は試してみてはいかがだろうか。

■輸入元：カイン ラボラトリー ジャパン　〒101-0022　東京都千代田区神田練塀町49番地（Tel：03-5298-7735，ホームページ：http://www.cayinlabo.com/）